

鴨川で魚が取れるしかけ作りについて



山川

私は東京大学農学生命科学研究科水圏生物科学専攻の水産資源学研究室で、水の中にいる生き物の研究をしています。私たちは、海にいる魚を水産資源として利用しているので、持続的に最大限有効に利用し続けるにはどうしたらいいか、研究を行っています。子供のころから魚を取ったり釣ったりするのが好きで、こういう道に入りました。



本田

続いて大八木君、自己紹介をお願いします。



大八木

小学校6年の大八木鴻佑です。魚を取るのが好きで、自分なりに魚を取ろうと仕掛けを作っているのですが、その仕掛けがあまりうまくいっていないので質問しようと思いました。



本田

あらかじめ鴻佑さんのお母さんから自作の図鑑などを山川先生にも送ってもらっています。もし必要であれば、zoomは画面共有が出来るので、資料を使って説明しますか？



大八木

作った仕掛けの実物が手元にあるので、映しながら説明します。この木の箱の中に餌を入れて、空いている穴から魚が入れば良いなと思っています。



山川

場所は鴨川デルタで、昼間に1~2時間仕掛けるんですね。事前に送ってもらった資料を見たのですが、大八木君が魚を捕るのがすごく好きだということが伝わってきました。この仕掛けを作る前は、たも網で茂みをかさがさしてたくさん採れていたということでした。頻度は週に一回で、1年ほど継続して同じ場所で調査するというのは、季節性などもよくわかっていいと思います。



本田

図鑑の絵も上手でした。



山川

魚だけではなく、昆虫やエビに関しても書かれていたので、魚以外の生物も含めてどういうものがあるのかよくわかる図鑑だったと思います。大八木君の作った仕掛けでも魚が採れば良いと思うのですが、今は昼間の時間だけ仕掛けているとのことでしたが、一晩おいてみるのはどうでしょうか。魚は、夜に外敵に食われる確率が高くなるので、どこかに隠れたいくなる生態をもつ魚は多いです。夜、どこか潜むのに適当な場所を見つけると、昼間になってもその場所に留まるということがよくあるので、前の日において一晩経って朝に上げてみるのがいいと考えました。



大八木

一晩おいてみようと思います。どういう場所に仕掛けたらいいですか？



山川

大八木君が普段魚を採っているのは淀みのようなので、その場所がいいと思います。他に、仕掛けについて考え方を考えてみたやり方があるのですが、聞いていただけますか。私たちの研究室では、ここ数年、多摩川でウナギの研究をしています。多摩川は東京と神奈川の間を流れる川で、都市に近い場所では、いろいろな生物を大事に保全していく必要があるのですが、その象徴的な魚としてウナギを取り上げて調査をしました。他に、多摩川で最近、水質がきれいになってアユが遡上してきたことは明るい話題として報道されているので、大八木君もテレビで見たことがあるかもしれません。我々がウナギを調査した時には、こんな道具を使いました。



山川

左の写真は、プラスチックのネットに、人工フィルム、ビニールの紐みたいなものをたくさんつけてふさふさにしました。もともと海にはアマモという緑色でふさふさした藻が海の浅いところに生えていますが、それを真似して人工的に作った魚の隠れ場です。これを多摩川に仕掛けておくと、中にウナギが入ります。大きなウナギも入るし、多摩川を遡上してきた子供のウナギも入ります。アマモ場も、魚のゆりかごという言い方をしたりしますが、小さい魚がアマモの中で暮らして、大きくなってから外に出ていくこともあります。ウナギだけではなく、いろんな魚がこの中に入ります。



山川

右の写真は、貝類を養殖するかごの中にフィルムを詰めて、中に魚が潜むように作りました。ウナギが結構採れました。他の魚も、大八木君が採っていたようなスジエビなんかもすごくたくさん入ります。柴漬け漁って聞いたことありますか？

ないです。



大八木



山川

木の枝を切って、束ねて沈めておきます。それを網ですくって、中に入っているものを取る方法で、この研究の仕掛けの原理と同じです。一晩浸けておくとたくさん魚が入ります。市販のものだとチアガールのポンポンだったり、もっとふさふさが長いほうがいいかもしれないので自分で作るというです。他に、熱帯魚や金魚、メダカなどを飼う人たちは、卵を産ませるために水槽にふさふさしたものをに入れておいたりします。人工産卵網といって、魚は卵を産みつけたりするもので、重りを付けて川に沈めておいたり、川は意外と流れが速いので、流されないようにブロックや土のうに結んで固定するといいいと思います。



山川

ふさふさしたものを水に沈めるという点で共通のものでは、ヨシというイネ科の植物が琵琶湖の湖岸にところどころ生えています。こういう中に魚が入る習性があり、ヨシ原を保全することが、魚類相を保全するのにとても大事なので、琵琶湖ではヨシ原を保全する活動があります。ヨシについても調べてみるといいかもしれません。海だとアマモ場、ホンダワラという海藻のガラモ場がふさふさしている場所としてあります。



山川

我々はウナギの調査で先ほどの仕掛けを使いましたが、うまくいけばいろいろな魚が採れるのではないかと思います。大八木君も、ガサガサをするとき、草が茂っているところだと魚がよく採れたりすると思います。その草を人工的に作ってみるということです。



山川

しかし、漁具をいろいろ使って魚を採ろうとすると、川ではいろいろ禁止されているので注意が必要です。特定の漁具で特定の魚を採ってはいけないと川ごとに決められているので、あらかじめきちんと知ったうえで、禁止されていないやり方で禁止されていない魚を取る必要がありますから、気を付けてください。たとえば、さっきの道具を使って鴨川でウナギが採れても、ウナギは採るのを禁止されている魚なので、その場で逃がさないといけません。他にも、ペットボトルを切って、飲み口を下にすると漏斗状になるので、餌を入れておくと魚が引き寄せられる漁具があります。漏斗の口が狭いので、いったん魚が入るとなかなか外に出られなくなります。簡単にできるので、小学生が作って魚を採ったりしますが、これを禁止している川とそうでない川があるので注意が必要です。京都府を調べてみると、川遊びのルールというページがあります。見たことありますか？

見たことないです。



大八木



山川

これを見ると、どういう魚を採っていいか、どういう漁具を使っていいか、全部書いてあるので、一度これを見ておいてほしいです。鴨川の場合、鴨川漁業協同組合という団体が川を管理しています。「京都市南区小枝橋から上流の鴨川本支流、ただし支流の白川及び高瀬川を除く」川を鴨川漁協が管理しています。鴨川デルタは鴨川漁協の管轄内なので、鴨川漁協の決まりと、京都府の定める漁業調整規則に気を付けて見ておかないといけません。



山川

たとえば京都府の川では、サケ、アマゴ、イワナ、アユ、コイ、フナは採ってはいけない期間が決められています。それから、サイズが小さい魚を採ってはいけないこともあります。禁止漁具、漁法も京都府全体で定められていて、先ほどお話したペットボトルは透明なので使ってはいけません。鴨川でペットボトルの漁具を使うと、違反行為となってしまいます。規定されている漁具の名前は地域特有だったりするので、わからなければ調べてください。作った仕掛けが規定に該当しないかどうか、鴨川漁協にあらかじめ聞いてみるというと思います。



山川

他には、漁協はアユやアマゴの数を増やすために放流したりするので、費用を賄うために遊魚券を販売することもあります。遊魚券を買った人が魚を釣っていいことになっていて、中学生以下は無料なので、鴨川漁協に相談に行くと、小学生の研究をやらせてもらえるのではないかと思います。事前に相談しておけば、大八木君が仕掛けたものだと漁協の人にもわかると思いますが、相談なしに仕掛けると、監視員の人が見つけて面倒なことになる可能性があります。

こういうルールは詳しくは知りませんでした。



大八木



山川

ほかにも、京都府の漁業調整規則では、木を浸す漁法はおそらく禁止されていますので、先ほどの柴漬け漁法はできないと思います。我々が多摩川で研究したときは、東京都と神奈川県の特例採捕許可を取りました。事前に申請したうえで研究したので問題にはなりません。面倒くさいことになる可能性は避けた方がいいと思います。がさがさで魚を採る分には構わないと思うのですが、漁具を研究して進化させていくとどこかで規則に引っ掛かる可能性もなくはないので注意してください。

仕掛けに使うエサは
どういうものがいいですか？

大八木

どういうものでもいいと思います。においに寄ってくるので、魚肉を入れておくとかですね。研究でウナギを採ったときは、ふさふさ以外に筒の罟を仕掛けていて、その中にはミミズを入れておきました。他の魚なら、スーパーで売っている塩サバを餌にすると魚が寄ってきたりします。

山川

これまでは、釣具屋さんで売っていた練り餌を使っていました。

大八木

においで寄ってくるので、それもいいと思います。最初に見せてくれた箱の仕掛けの外や中にふさふさを付けたり、いろいろ試してみるといいと思います。

山川

ふさふさを水から上げる時、魚が落ちてしまうと思いますけどどうしてしましたか。

大八木

ふさふさの下を網ですくって魚を採りました。小さい罟なら一人で網も使えると思います。

山川

すでに作った箱の中にふさふさを入れてみようと思います。どんな魚でも取りたいので、やってみます。

大八木

もし広い場所が好きな魚を採りたかったら釣りのほうが有効だったりするかもしれませんが。気を付けないといけないのは、いま全国的に大雨が増えています。雨が降ると川は増水するので、天気予報をよく見ることも大切です。大八木君の資料を見て気になったことは胴長を履いているということですが、ライフジャケットはつけていますか？

山川

ライフジャケットは
つけていません。

大八木

胴長を履いて川の中で転んでしまったりすると、中に水が入り込んできて、泳ぎの得意な人でも立てなくなったりします。我々が調査で胴長を履くときは、ライフジャケットを付けるようにしています。鴨川デルタは浅いかもしれませんが、川は流れがありますので、胴長でひっくり返ったときのことを考えてライフジャケットを付けることをお勧めします。我々のように長年フィールド調査をしている研究者でも、川で調査していて胴長でひっくり返って死亡した例がないわけではないので、念のためにライフジャケットは大事です。

山川

ふさふさの仕掛けですが、水草とビニールでは、どちらの材質がよさそうですか？

大八木

試したことがないのでわかりませんが、大八木君がやりやすい方法から試してみるというかもしれません。うまくいかなかったとしても、それは大事なデータなので、記録しておくといいと思います。

山川

仕掛けで迷っていたので、ありがとうございました。

大八木

うまくいくといいですね。やってみて、結果がどうだったか、知らせてもらえると嬉しいです。

山川